

## ALS 患者のケア場面を読み解くエスノグラフィー

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
発達・福祉臨床クラスター  
安達 俊祐

神経難病の一つとして ALS ( Amyotrophic Lateral Sclerosis、筋萎縮性側索硬化症 ) という病がある。この病では、身体の動きに障害が生じ、最終的には自発呼吸や発話でのコミュニケーションまでも制限されることになる。本研究ではフィールドワークの手法を用いることで在宅療養を行う ALS 患者一名を観察対象とすることで、ALS 患者のケア場面の仕組みに関する一考察を得た。

観察結果をオープン・コーディングを用いて分析したところ、141 個のデータから 9 つのカテゴリーが抽出された。さらにそのカテゴリーから場を読み解くために相互的判断 - 一方向的判断と道筋の散在 - 道筋の収縮の二軸から成る象限図を作成した。その結果として、患者とヘルパーと第三者 ( ケアに熟達した人 ) が相互に関連しながら、ヘルパーの可能な範囲内でケアを実行すると同時に、徐々にその範囲を広げるような仕組みを見ることが出来た。つまり、今回研究のフィールドでは、もともとは持っていなかった能力が現場で養われ、さらには患者を満足させるケアを成し得ているという事実があったと同時に、増田がヘルパーの出来る範囲内でケアを要求するという行動が見られた。